

第4部「Linux、KVM 教育コース」のご紹介

講師：土屋大輔
CTCテクノロジー株式会社

お申込はこちらから

<http://dm.ctc-g.co.jp/c?c=778&m=12313&v=97c60ccd>

注 | 目 | コ | ー | ス |

◆◇ VMware vSphere: Design Workshop [V5] ◇◆

VMware vSphere: Design Workshop [V5] コースは、VMware vSphere 5.0 を用いて設計を行うエンジニアの方々向けのコースです。

講師の講義と受講生同士のディスカッションを通して、様々な設計のノウハウを習得して頂くことができます。ディスカッションをして頂く際には、模擬設計問題がありますので、様々なエンジニアの方々の設計手法を参考にすることが可能です。

VCAP-DCD5の資格対策としてもお奨めできます。是非ご受講ください。

VM23 VMware vSphere: Design Workshop [V5]

期間：3日間

費用：¥220,500 (税込)

<http://dm.ctc-g.co.jp/c?c=779&m=12313&v=324d9cc3>

◆◇ VMware View: Install, Configure, Manage [V5.0] ◇◆

VMware View: Install, Configure, Manage [V5.0] は、VMware View 5.0 を使用して初めて VMware Virtual Desktop Infrastructure を構築・運用するために必要な、知識、スキル、能力を提供します。

VMware View 5.0 ではユーザプロファイルを独自に管理する「Persona Management」機能が新たに追加されております。

Windows の「移動プロファイル」や「フォルダリダイレクト」が有名ではありましたが、新たな選択肢として期待されている機能です。

Persona Management は本コースでも紹介されている内容となりますので、是非ご受講ください。

VM32 VMware View: Install, Configure, Manage [V5.0]

期間：3日間

費用：¥281,400 (税込)

<http://dm.ctc-g.co.jp/c?c=780&m=12313&v=3627c9e0>

ト | ピ | ッ | ク |

今回のInst. Tech Viewは、Hyper-Vについての話題です。

Windows Server 2012 や Windows 8 に搭載されるといわれている Hyper-Vの仮想化機能ですが、現行の Windows Server 2008 R2 にも Hyper-V バージョン2.0が搭載されています。今回はHyper-V 2.0の「高可用性」と「Live Migration」について、確認しておきたいと思います。

「高可用性」と「Live Migration」はいずれも前提として、仮想マシンをフェールオーバークラスタのリソースとして登録し、また仮想マシンの構成ファイルを「クラスタ共有ボリューム」と呼ばれる場所に配置しておく必要があります。

高可用性の構成がされていると、仮想マシンを実行する物理サーバー（クラスタのノード）が急に停止した場合、仮想マシンは一度ダウンすることになりますが、別の物理サーバー（クラスタのノード）上で再起動します。

Live Migrationは仮想マシンを起動したまま、別の物理サーバーに移動する機能です。基本的には、クラスタ管理ツール等から手動で実行します。動作の仕組みとしては、仮想マシンのメモリ情報を2台の物理サーバーで同期後、フェールオーバーさせます。メモリ同期は仮想マシンのメモリ量等に比例して時間がかかりますが、フェールオーバーは瞬時に終わり、ユーザーへの影響は軽微です。

Live Migration は、仮想マシンを実行している物理サーバーを計画停止する際などに使う機能です。例えば「物理サーバー1にセキュリティ修正プログラムを適用したい(再起動が必要となる)ため、仮想マシンを物理サーバー2に移動しよう」といった使い方です。物理サーバーが障害等で「緊急停止」した場合は、前述した高可用性の動作となります。高可用性とLive Migrationの基本的な説明は以上です。

Hyper-Vもバージョン2.0となってから年月がたっていますので、ナレッジなどもそれなりに蓄積されてきているかと思います。ここで1つ関連する事例をご紹介します。

＜事例＞

「Live Migration後、仮想マシンのネットワーク設定が以前の設定に戻る」

仮想マシンをクラスタリソースに登録後、Hyper-V マネージャーからVLAN の設定を変更しています。その後Live Migrationを実施したところ、変更前の設定に戻ってしまいました。Live Migrationには成功したのですが、VLAN の設定が以前の状態に戻ったため、仮想マシンに接続するためのネットワークが利用出来なくなってしまいました。

(原因と対処)

Hyper-V とフェールオーバークラスタはコンポーネントが異なるため、Hyper-V の構成が動的にクラスタ側に反映されないことがあります。Hyper-VマネージャーからVLANを設定した後、クラスタ管理ツールで「仮想マシン構成を最新状態に更新」を行うことで、回避できる可能性があります。

(参考URL)

Windows Server 2008 でフェールオーバークラスタのクイックマイグレーション構成後 仮想マシンの構成を変更して仮想マシンリソースを移動すると

原作に忠実で最もシャーロックらしいといえるでしょう。日本語版吹替の露口茂（太陽にほえろの山さん）が出す雰囲気も素晴らしいものでした。最近では、ロバート・ダウニー・Jr. が演じている原作とは趣の異なる映画版をイメージされる方も多いでしょう。ジュード・ロウがワトソン役で、好評を博して続編も登場しました。そういえば「ヤング・シャーロック」という映画もありましたね。

現在、英国BBC制作のテレビドラマ「シャーロック (SHERLOCK)」が放送されています。21世紀版シャーロック・ホームズで舞台は現代です。「コンサルタント探偵」を名乗るシャーロック・ホームズと元軍医ジョン・ワトソンが原作の骨子を世襲しつつも、21世紀である現代を舞台に活躍します。変わり者で偏屈で頭脳明晰なのはそのままにシャーロックは、情報収集の道具としてスマートフォン、インターネットを使い倒します。ちなみにスマートフォンの機種は最初はBlackBerryでしたが、途中からiPhoneに変わりました。数年前のロンドンでは実際、皆が皆、BlackBerryでしたが、現在はiPhoneなのでしょう。

ところで劇中では、シャーロックがワトソンを試すシーンがあります。証拠であるスニーカーからどのような情報を読み取ることができるのかを。シャーロックはワトソンを褒めながらも大事な情報を全て見落としていると手厳しく批評します。インターネット黎明期から情報の爆発と何度も繰り返されていますが、現時点で宇宙の膨張に準えられる如くその度合いを測ることすら出来ない状況です。過去には情報を得るために相応の努力が必要でしたが、現在は何処かには求めている情報は存在するでしょう。探し出るのが大変なのです。そして情報を見つけられたとしてもそれを読み解くためには、相応の知識が必要です。

無数の個が発信する膨大な情報を整理するのは無駄な努力かとも思いますが、個々が発信する一つ一つが大事な情報であり、これら膨大な知識が何処かに蓄積、保存されることは重要な事です。欠落なく損失なく確実なる蓄積とその永続的な保存が必須です。全ての情報が未来へ向けて資産であり、その情報を発信した方が生きた証拠でもあります。また将来のある時点において必要に応じた情報を的確に見つけ出す術の更なる進歩が望まれます。その反面、入手した情報を理解するためには、読み手である人間の読解能力及び活用能力が求められます。得た情報を活かせるのが本題です。

インターネット時代において、シャーロックはまさに申し子でしょう。彼には到底及ばないですが、鍛錬し自らを磨く必要があるようです。

では、次回をお楽しみに。

■お問合せ・ご意見・ご感想は◆CTC教育サービス◆窓口まで
シーティーシー・テクノロジー株式会社 エデュケーションサービス部
E-Mail: kyouiku@ctc-g.co.jp / TEL: 03-5712-8701

●外部委託について

弊社はメールニュース配信業務をシーティーシー・ビジネスサービス株式会社（CTC100%出資子会社）に委託しております。

●本メールマガジン編集・配信責任者

CTCT エデュケーションサービス部 部長 篠原 義一
所在地：東京都世田谷区駒沢1-16-7 ctc_edu_mail@ctc-g.co.jp

●個人情報保護方針

CTCグループの個人情報保護方針につきましては下記URLをご参照ください。

http://www.ctc-g.co.jp/guide/security_policy.html?top=b_security

●配信中止及びお問合せ対応について

- ・「CTC教育サービス News&Topics」の配信が不要な場合には、下記URLから配信停止のお手続きを行ってください。
<https://krs.bz/ctc-g/m/ctc-education>
 - ・当社では、複数種類のメールマガジンやメールニュースを発行しております。大変お手数ではございますが、CTC教育サービス以外からのメール配信についての受信拒否および個人情報に関するご要求は、各メールに記載の個々の連絡先宛にそれぞれご連絡をお願いします。
 - ・受信者ご本人様からの個人情報の開示・訂正・削除に関するご要求は、随時 ctc_edu_mail@ctc-g.co.jpにてお受けいたします。
-